

## 英国における病棟薬剤師業務の評価

### Accompanied ward visit

上田 彩 Aya Ueda MRPSGB, MSc

聖マリアンナ医科大学病院薬剤部

〒216-8511神奈川県川崎市宮前区菅生2-16-1

#### Abstract

As pharmacists assume the increased responsibilities demanded in new roles, they must also make a corresponding commitment to improve their professional competence. In the UK, Continuous Professional Development is a requirement of the registration to practice. Competency Framework was developed to support training and development activities to promote safe and effective practice. The framework also has been used as an aid to recruitment and as a tool to help in appraisal and to demonstrate performance. The aim of this document is to discuss the accompanied ward visits as training and assessment methods for clinical pharmacists, using this framework.

---

Key Words: continuous professional development, continuous education, professional education, graduate education, pharmacy education

継続的専門能力開発、生涯学習、生涯教育、卒後教育、薬学教育

---

(Correspond author: aya.mizukami@marianna-u.ac.jp)

(5月6日受付 8月26日受理)

## 1. はじめに

英国の薬学教育は4年制の学部教育と1年の必須実務実習の5年で薬剤師免許取得に至る。免許取得時には継続的な専門能力開発 Continuous Professional Development(CPD)を行うことで質の高い医療を薬剤師として国民に提供することに同意しなければならない。薬剤師免許交付は薬剤師会により行われ、更新には年会費の納付とCPDの記録を提出する必要がある。この記録はCPDポートフォリオと呼ばれ、オンラインで記録をメンテナンスできるシステムがある(fig.1)。提出された記録の内容の評価も薬剤師会が行う。

英国においては薬剤師免許更新制度により、卒後教育が充実しており、薬剤師の質の維持と役割の発展に大きく貢献している。本著では、病棟薬剤師の教育と評価を行う一例として Accompanied Ward Visit (病棟同行)について紹介したい。

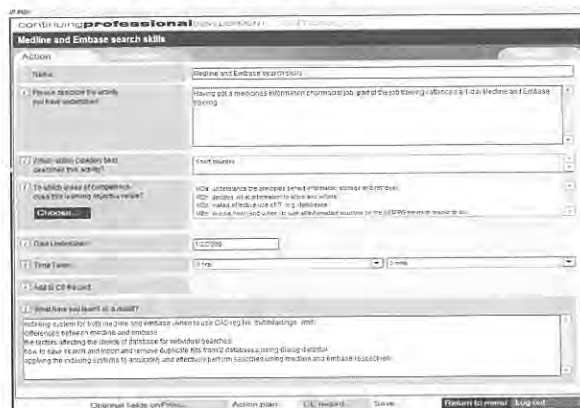


Fig.1 英国のオンライン CPD ポートフォリオ (www.uptodate.org.uk)

## 2. 卒後教育フレームワーク

英国の薬学教育では学部教育より、Competency based education(コンピテンシー基盤型教育)が行われている。1年間の実務実習においては実習で習得すべき Competency (能力・適性)が設定されており、これらを達成したことを証明するために、実習中の業務や出来事をエビデンスとして提出することになっている。すなわち、薬剤師免許更新に必要な CPD ポートフォリオである。

ここで、本邦薬学部の実務実習のコアカリキュラムで設定されている到達目標(SBOs)を用いた実習と異

なる点は、英国の実務実習では実習生は雇用された立場で経験を積み、監督下で責任を持って業務を行うことである。自ら competency を達成するために能動的に学び、1年後には薬剤師として業務を行えるレベルに達するのである。

1年の実務実習後、薬剤師国家試験に合格すると薬剤師免許が交付される。薬剤師は新人でも20年の経験のあるベテラン薬剤師でも薬剤師としての責任を果たさなければならない。病院では、薬剤師として勤務を始めれば、その日から調剤監査や病棟業務を行うのである。そして薬剤師が継続的に質の高い医療を提供していくためには個々の薬剤師が CPD を実践することが不可欠になってくる。

CPD の実践とは、大学教育や実務実習とは異なり、日々の業務や役割の中で個々の薬剤師が取得すべき知識・スキルなどを把握し、それに対して学習計画を立て、実践し、評価するという一連のサイクルである。この一連のサイクルにおいて、何を学び、今後の発展のために何をすべきかを記録するのが、CPD ポートフォリオである(fig.1)。免許更新時に必要とされる記録の数は、月1件または最低年間9件とされている。内容は、研修会や修士学位の授業等だけではなく、個々の薬剤師業務に関連した記録も CPD として含めることを推奨している。英国薬剤師会は、本来薬剤師として、求められる業務や期待に応えるためには、免許更新時に提出する最低限度の記録以上の CPD を行っていることが前提であり、提出する記録は、幅広い領域の内容をバランス良く選択することが推奨されている1)。

英国において特徴的なのは、この CPD 実践を個々の努力に委ねるだけではなく、CPD 実践をサポートするために薬剤師会・薬科大学・病院薬剤師・地域薬局薬剤師の連携グループ Competency Development & Evaluation Group(CoDEG)が作成した卒後教育フレームワークが存在することである2)。このフレームワークは薬剤師のキャリアラダーに沿った competency を設定している。例としては、英国の病院薬剤師にはグレード制があり、各グレードの薬剤師が必要とする知識や能力が設定されている (Fig.2)。すなわち、個々の薬剤師の職位の job

description(職務記述書)にこのフレームワークが組み込まれており、それによって病院は薬剤師の採用を行い、評価し、キャリアアップへとつなげ、人材育成を行う。薬剤師としては、免許更新に CPD は不可欠であり、またキャリアアップへのインセンティブになっているのである。

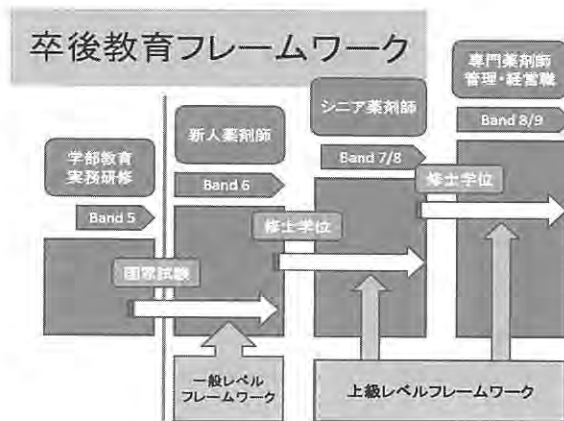


Fig.2 英国の病院薬剤師のグレードと卒後教育フレームワーク

### 3. 病棟薬剤師業務の教育と評価

#### Accompanied Ward Visit

英国の病院では、調剤や混注等の業務はテクニシャンが行う為、薬剤師は臨床業務に貢献できる環境がある。臨床業務とは日本の医療制度のように、fee for service として薬剤師の服薬指導に対して診療報酬が支払われるようなインセンティブはないが、薬剤師は担当病棟の患者の薬物治療に責任を持ち、医師の処方を受けて、クリニカルスクリーニングを行い、調剤オーダーを行う役割がある。すべての処方箋は薬剤師によるクリニカルスクリーニングをしてから調剤するのである。すなわち、薬剤師は患者への薬剤投与の最後の砦としての役割を担っている。

英国においては、一部の管理職等を除いてほとんどの薬剤師が病棟業務を行う。入職して間もない新人薬剤師でも病棟業務に就くのである。薬剤師による病棟業務の質を保つために業務スタンダードがあり、このスタンダードに前述した卒後教育フレームワークが組み込まれている。個々の薬剤師は業務に求められる知識・スキルを把握し、業務を遂行する。そして教育と評価目的に Accompanied Ward Visit(病棟

同行)が行われる。指導薬剤師が新人薬剤師の病棟業務に同行し、薬物治療マネジメントやどのように他の医療従事者と連携し業務を行っているか、問題解決能力などを観察する。

Accompanied Ward Visit においては4つの領域の評価項目がある。Table1 中に①患者ケア能力、②個人能力、③問題解決能力、④管理能力として詳細な項目を示した。それぞれの項目は4段階で評価される。Accompanied Ward Visit は日々の業務とは別に時間をとって行われ、最後に指導者がフィードバックを行う。

Table1 病棟薬剤師業務の評価項目

① 患者ケア能力 Delivery of patient care	② 個人能力 Personal Competencies
症例の評価 治療薬の選択 投与量・用法・用量・投与経路・剤型 薬歴・病歴の把握 相互作用(薬物・薬物・薬物・病態) 薬物治療モニタリング 問題の優先順位 問題解決能力 インターベンションの記録及び自己評価 個々の患者のニーズに合わせた情報提供 適切な情報提供方法	勤労性 自主性 タイムマネジメント プライオリティ コミュニケーションスキル チームワーク プロフェッショナリズム
③ 問題解決能力 Problem Solving Competencies	④ 管理能力 Management & Organisation competencies
適切な情報収集能力 情報の要約と問題定義能力 知識(病態・薬理学・薬物動態学・副作用・相互作用等) 情報の評価 論理的な判断能力 情報提供能力 問題解決後のフォローアップ	医療の質や安全を重視 適切なマニュアルの把握と業務遂行 医療ミスなどの報告と防止 業務の改善に貢献 医療経済への配慮 業務の組織の中での役割の認識 適材適所な人員配置 業務に必要な教育の実行 医薬品の購買ルート把握 安定供給できない薬品の対応

英国における病棟薬剤師業務は、新人薬剤師はローテーションと呼ばれ、様々な診療域の病棟を3から6ヶ月の間隔でローテーションし、幅広い臨床知識を養うのが一般的で、Accompanied Ward Visit はそれぞれのローテーションの病棟で必ず行われる。本邦においては現場での指導者が不足しているのが現状であるが、英国においては病院薬剤師のグレード制と明確な人材の組織体制があるため、薬剤師になれば、実習生の指導を、シニア薬剤師は新人薬剤師の指導を行うという体制が出来上がっている。そのため、指導をするための教育も行われる。すなわち、Accompanied Ward Visit は病院薬剤師の誰もが通ってきた道なのである。実際に臨床の現場で病棟薬剤師同士の意見交換ができる機会であり、教育の場であり、公式な評価である。病棟での薬剤師業務は、臨床現場に出たから学ぶことも多いため、薬物治

療の基礎知識を身につけているだけでなく、他の医療従事者と連携しながら、その知識をどのように患者治療に活かしていくべきかを考えながら働くことが重要である。病棟同行や日々の業務の観察がなければ、このような薬剤師の活動を評価することは難しく、Accompanied Ward Visitという新たな方法で病棟薬剤師の教育及び評価を行うことは、今後の本邦の薬剤師教育にも導入できる内容である。

英国では薬剤師の評価は、これ以外にも各部署の指導者からの評価との総合評価となり、キャリアアップには臨床薬学の修士学位が必要となる(Fig.2)。すべての薬剤師の採用は公募で行われるため、経験のある薬剤師が辞めても、同等の経験がある薬剤師がその職位の後任となる。人材確保のためにも、教育内容を含めて、魅力的な薬剤師業務を行う努力を怠らないことも質の高い業務へとつながっているのではないか、これが近年の英国の薬剤師の役割の拡大の背景のひとつであると考えられる。

#### 4. 終わりに

本邦においては、薬剤管理指導料の導入や医薬分業が病院薬剤師を調剤業務から病棟業務へ発展させ、様々な認定・専門薬剤師などの生涯学習制度が薬剤師の役割の拡大を支援してきた。薬学教育は4年制から6年制へと移行し、2012年には6年制教育を受けた薬剤師が誕生する。臨床での活躍が期待される新たな薬剤師への教育改革が行われている。英国においての免許更新制度の導入は、今まで個々の薬剤師が自ら行っていたCPDを制度化したという経緯である。英国以外にも生涯教育が義務化されている国はポルトガル、カナダ、米国、フランス、ケニア、ザンビア等がある<sup>3)</sup>。現状として多くの薬剤師はCPDを行い、自らのスキルアップをはかっているが、将来的には本邦でも薬剤師の質の維持を保つための生涯教育制度が必要になるであろうと考える。実務実習においては、到達目標が設定されたが、薬剤師が行っている薬剤管理指導業務にも質の維持と継続的な成長につながるStandardsが必要である。また薬剤師の業務を評価し、キャリアアップにつなげていくインセンティブが今後の薬剤師の躍進の鍵となる

のではないかと考える。

薬剤師として質の高い医療を提供し続け、国民からの期待に応えるためにも自らの質の維持と向上について検討すべきである。

#### 引用文献

- 1) Royal Pharmaceutical Society of Great Britain Professional Standards and Guidance for Continuing Professional Development <http://www.rpsgb.org.uk/pdfs/coepsgecpd.pdf> 1st March 2009
- 2) The Competency Development and Evaluation Group <http://www.codeg.org/>
- 3) 2009 FIP Global Pharmacy Workforce Report <http://www.fip.org/>